



# 友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-25

青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94

七戸町立 鷹山宇一記念美術館内

鷹山宇一記念美術館友の会

☎ 0176-62-5858

FAX 0176-62-5860



## 第1回研修旅行を実施

### 萬鉄五郎美術館(東町)宮沢賢治記念館(花巻市)

友の会では、文化施設の充実による地域活性化の先進地である岩手県内の公立の美術館・記念館を見学する最初の研修会を実施しました。朝早く町を出発し、バスで移動しながら日暮れ後に戻るといふハードなスケジュールでしたが、宮沢賢治の資料収集と研究の拠点である花巻市の宮沢賢治記念館、近代絵画の先駆者の一人萬鉄五郎の生誕地である東和町が彼を記念して開設したという、当鷹山美術館の先輩格にあたる萬鉄五郎美術館の二施設を見学することができました。

#### 賢治・鉄五郎館見聞記

(二月二十五日)

佐藤 亘

春はまだ浅いはずなのに今日の岩手路は強い陽射しで、車のカーテンを引くのに忙しいくらい。「もったいない」と、思わず言いかけて、好天気のことだけでなく、四十人乗りに十九人の旅行がもったいないとも取れるなあと、口から出かけたのを必死に飲み込む。岩手山の残雪が逆光に輝いて美しい。

十一時過ぎ高速を降り、花巻にある宮沢賢治記念館を訪ねた。岩手県の文化施設を過去に幾つか見て、どの建物も立派だが、それよりも、周囲の環境を含めてその施設にふさわしい雰囲気、一様に漂っていることに気付くが、賢治館も、まさに、その坂の上り口から個性的な賢治流の詩情に満ち、見学者をして館へといざなうのである。記念館のはるか下に、新しいイーハトーブ館があり、

賢治設計という花壇をたどって雪まじりの階段を降りて見る。

賢治研究者の集いと情報発信の拠点施設というこの館の中で、賢治の「注文の多い料理店」というアニメ映画に魅せられて、席を立つことも忘れるくらい。

午後、賢治記念館を出て間もなく、隣町の和賀郡東和町にある「萬鉄五郎美術館」に到着する。学校や幼稚園が城跡にあるといったまるで私達の七戸町そっくりの、そう言えば人口も町りの様子もどこか七戸と似ている雰囲気の下に、窓の少ない二階建ての近代建築の記念館があった。萬鉄五郎(二八八五〜一九二七)日本の近代美術の先駆者の一人という、彼の生地建つ



左 上 上 萬鉄五郎美術館の全景 「八丁土蔵」の内部 1階がコピーショップ 2階がハイビジョンシアター

この美術館の館は、萬の油彩画・水墨画・素描やノート・書簡・写真や遺品などの資料を所蔵しているという。一階に企画展示室やホール、二階に第一・第二展示室とあって町縁の作家のものも展示してあった。一九八五年創立というから、十一年前に出来たものである。更に、記念館の隣に、ひとときは目を引く土蔵「八丁土蔵」という名の、ナマコ壁のある見事な蔵がある。萬鉄五郎生家の土蔵を復元したというここに、ハイビジョン・ミュージアムがある。つまり、四十人程の人が観覧できるハイビジョン・シアターが二階にあり、百十インチの大画面に、静止画ながら高精細画面の資料が、CD並みのクリアなサウンドと共に、見る人を

「萬」の世界に引きずり込むのである。この素晴らしい迫力の映像文化これも又、岩手共通の見事な演出と思えてくるのである。

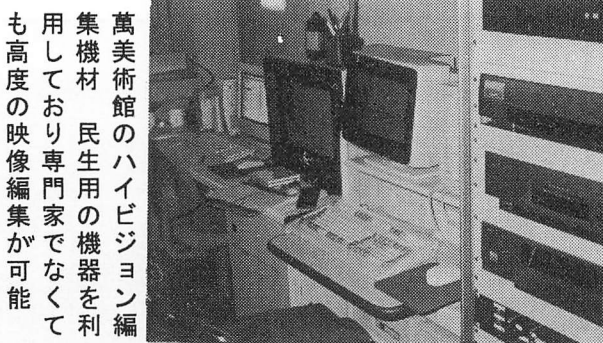
聞くところでは、このハイビジョンの機械は、隣の記念館本館内からの遠隔操作だという。それにしても、郷土の生んだ画伯の業績生涯を、ずばり学べるこの機械・施設は、私達にも将来是非欲しいものの一つだと思ったのである。

私達は、東和町と七戸町のどちらも、郷土の画伯の記念美術館としては共通しているが二人の画家の画風自体がまことに个性的であるように、両美術館ともそれぞれ、まことに魅力に満ち誇るに足るものであることを、今更の如く感じながら、東和町を後にしたのである。

(友の会会員)

## 年間入場者

### 二十六万人に驚く



宮沢賢治記念館は花巻市の郊外、胡四王山の山上にある鉄筋コンクリート造平屋の建物で昭和五十七年に開館した。周囲には資料収蔵庫・賢治の設計による花壇と日時計を再現した「ポランの広場」・賢治に関する研究論文や芸術作品を収集・整理している研究拠点のイーハトーブ館・童話にちなんだレストランなどが整備されている。宮沢賢治の独特の世界を体験するために、内外から多くの人々が訪れており平成6年は実に二十六万人余の入館者

があったという。

## ハイビジョン

### シアターに感銘

萬鉄五郎美術館は賢治記念館から新幹線新花巻駅と交差した位置の東和町土沢地区にあり、昭和五十九年に開館した。町の規模や歴史・建物の概要など七戸町と共通する部分が多く、まさに鷹山美術館の先輩美術館といえる施設である。七戸町でも美術館建設に際し貴重なアドバイスをいただいたそうである。ここでは非常に充実した研究活動が行われており、昨年開催された開館十周年

記念事業の「萬鉄五郎 多面体」という企画は各方面から高い評価を得た。また別記のようにハイビジョンによる映像処理システムを導入し先進的な地方美術館として参考となる事業を実施している。

(5頁から続く)

その入口に出来る美術館であれば、彼の気の入れようがわかるというものである。康さん康さんと愛称で呼ばれ、その下で働いていた十和田市出身の平野さん、この方も建築家であるが大変な私淑をしていたようである。今でも飲む時は影膳ならぬ影グラスを置いてからやるという話を聞いて、涙が出るほど嬉しい思いをしたことである。

宮内康建築工房は当初アウラ設計工房としてスタートした。アウラって何ですかと聞いたら、オーロラのこと。あの得体の知れない不思議な微妙な輝きや、たゆたい乍ら刻々に変化していく宇宙に天体現象、つかまえ所のないおどろおどろした世界、それが彼のイメージにあつたらしく、設計に於いても模索検討をくり

## ◇ ハイビジョンとは

ハイビジョンは高精細度テレビつまりハイディファイニション(HD方式)テレビジョンの愛称です。

鮮明な画像と横長の画面が売り物で、現行テレビ(NTSC方式)に比べますと2倍を越える1125本の走査線数をもっており、また縦横比率も従来の3対4に比べ9:16という横幅の広い画面となつています。

2倍の走査線、絵素数にして5倍以上という豊富な情報量が色彩と質感を忠実

鮮明に再現するほかこれまでの3倍というワイドな画面が迫力、臨場感を与えます。加えてCD並みのクリアなPCMサウンドが綺麗な画面をよりダイナミックに演出してくれるというわけです。

ハイビジョンには静止画と動画があり、美術館では静止画を中心に収蔵品の映像を紹介しますが、大量の画像情報をコンパクトに保存・管理できる特性をもっていますので収蔵作品を中心に主に美術作品のデータ

ベースを構築するほか、地域の文化財、文化情報のデータベース化も併せて図り、これらをもとにした映像ソフトの制作・公開も期待されます。

このシステムにより、450万絵素の液晶式ハイビジョン・プロジェクターによって110インチのスクリーンに投射しても質の低下を全く感じさせない高品質の映像ソフトを、比較的低コストで制作することが可能になります。

返し、そのおかれた自然環境・山川草木・街並・住民・風土歴史等にまで心を通わして設計したようである。宮内さん飲むことは飲んだが余り食べなかつた。ちよつと箸をつける位で、片腹を抑えていた姿が今になつて思い出される。興が乗れば演歌が好きでよく歌っていたように思う。全体の印象はダークグレーという感じだった。十月にしては冷たい雨の夜宮内さんのお通夜に参上お焼香したが彼を慕う誰かが群参していたことを思い出す。惜しい人を亡くしたなあと今つくづく思う。

私の人生にとって宮内さんは忘れることの出来ない強烈な大事な人である。物静かな中に心の強いアーティストであった。美術館は七戸を愛した鎮魂の作品であるとも云える。文化村の開村式に宮内さんの奥さんも出席された。今はなき谷村保雄さん、ランプ館のステンドグラスの制作者池内康さん皆亡き人となり、わたしにとって美術館は七戸をこよなく愛した三人の魂の結晶ともいえる。静かに合掌瞑目してこの稿を終りたい。

美術振興会副理事長



# 催開展二期春

5月9日(火)から5月28日(日)まで

鷹山宇一記念美術館  
NEWS & REPORT

NO. 1

平成7年4月

## 春季二期展

会期 5月9日(火)―28日(日)  
会場 七戸町立鷹山宇一記念美術館

共催 財団法人鷹山宇一記念美術振興会  
社団法人二科会／二科青森支部  
青森県教育委員会 東奥日報社  
後援 むつ小川原地域・産業振興財団  
入場料 一般500円 大・高300円 中・小100円

『春季二期展』は、社団法人二科会が「造形上の実験的創造にいどんで」毎年三月、東京の松屋銀座(デパート)で開催している展覧会です。二科会会員、会友作品はもちろん、一般からの公募による作品を展示する秋の本展「二科展」とは異なり、主に絵画部・彫刻部の二科会会員による最新作が展示されます。本年開催されたこの「春季二期展」では、五日間の会期中来場者がおよそ一万二千人をかぞえる大盛況で、その人気の高さがうかがえます。

さて、この「二科会」とは一体どのような美術団体なのでしょう。か。「二科会」は、一九一四年(大正三年)に新しい美術の確立を目指して結成されました。「新しい美術の確立をめざして」そこには、当時日本初の官設展である文部省美術展覧会(文展、一九〇七年創設)の洋画部の審査上、新・旧二派の対立が目立ち始めていたという背景があります。認められない新傾向の画家たちにより「新旧二科の傾向別に審査

すべきだ」という建白書が文部省に提出されましたが却下。そこで、文展とは別に独自の展覧会を催すということになりました。

「二科」という名称には、文展の方が一科(旧派)で自分たちこそが「二科」つまり「新派」であるという意味が込められています。このような在野精神のもと、常に時代の最前線を歩いてきた「二科会」。二科会趣旨に「一貫した二科の伝統精神は、現代を認識する徹底性に於て一流一派式に方向を限定する態度を採らない。このことは、新しい価値の創造に向つて不断の発展を期する本会必然の信条であると共に、全会員に対する制作上の自由をあ

くまで擁護するゆえんである。」とあるように、この永い歴史と、それらを受けついで今日にいたる二科精神にその人気の秘密があるように思われます。

今回、鷹山宇一記念美術館で展示される作品は、第七九回展(一九九四年)青森県作家の入賞作品を含む絵画八十余点と、彫刻十二点。二科会理事をつとめる鷹山宇一先生の最新作はもちろんのこと、文化勲章を受賞した、二科会理事長吉井淳二先生の一〇〇号の作

品ほか、二科会会員の一〇号から五〇号までの作品をご覧いただけます。

入館料は平常通り、一般五〇〇円、高大三〇〇円、小中一〇〇円。

### ランプ館近く再公開

かねてより、お待たせしていた「ランプ館」が四月末には開館できることとなりました。

昨年一月二八日に発生した「三陸はるか沖地震」。青森県内の文化施設にも被害がありました。当館でも鷹山コレクションのランプが転倒、四点破損するという被害が発生しました。

このため、事故の再発防止と確実な固定方法の検討のためランプ館を一時閉鎖し、早急に展示を再開する予定でした。が、しかし、今年一月一七日の「阪神大震災」の発生。多くの犠牲者をだし、多大な被害となつています。兵庫県内の美術館等文化施設も例外ではなく、かなりの美術作品が被害を受け、修復不能の資料もあるようです。このような事態が発生した現在、美術館としての地震対策が非常に問われている状況にありま

友の会会員の皆様には、それぞれの会員の特典で入館いただけます。会期中は、休まず開館いたしますので、皆様お誘い合せのうえ是非ご来館下さい。お待ちしております。

当館のランプ館が、一時閉鎖から約四か月間の長期に渡る閉鎖となつてしまいましたのも、鷹山宇一先生のランプコレクションの展示をより慎重に、固定方法の検討を重ねなければならぬという必要性を感じたことによります。

皆さまには、ずいぶんとご迷惑をおかけし誠に申し訳ありませんでした。また、地震発生以来、お見舞い・激励をいただきました。ありがとうございます。ここに厚く御礼申し上げます。

今後は、美術館の「洋燈・あかり」を絶やさぬようつとめて参りたいと思っております。

美術館の企画等の記事はNEWS & REPORTとして区別して編集することになりました

# 美術講座 (平成六年度) を開催

大池亜希子 (学芸員)

鷹山宇一記念美術館の開館を契機として、芸術への関心を高め、創作活動の促進をはかろうという目的で計画されたもので、七戸町教育委員会主催、美術館の共催という形で開催されました。教育委員会としても、美術館としても初めて、美術館としても初めての試みでしたが、実技・講演会あわせて計四回の講座を実施しています。

今回、ここではまったく私になるかもしれないが、一つ一つの美術講座を振り返って、私自身感じたこと、また反省などを交えて、ご紹介したいと思えます。

## 「デザイン画教室」

平成七年二月～三月

講師・東信昭氏。十和田市在住の水彩画家。水彩連盟会員、一陽会会友。現在、青森県立七戸養護学校教諭。最近では、新洋画会展（H七、第十六回展）に生徒と出品。ダブル入賞（新人賞）を果たすなど、自身の制作活動のみならず、生徒への美術指導にも力を注いでいる。

好きな言葉などをくっつき文字にして描き、ポスターカラーで色を少しずつ変えながら塗っていく。今回は色の変化・グラデーション、そして色の美しさについて勉強しました。教師という職業経験、また、画家、人間としての人生経験から先生のティーチング法は、いつも真剣で、ユーモアたっぷりです。「絵を描くのは苦手」そう思っていた私も、先生のおだてにのせられ、最後には、自分としては「まずまずの出来に仕上がったのではないか」と思うにいたりしました。

「いつから絵を描くことが苦手になったのかな」と考えながら、描く方の気持ちをおれさせず、楽しませながら絵を描かせてくれた先生。

絵を描くことを「楽しむ」ということ。それは、自分から「絵でも描いてみようかな」という気持ちにさせる「始めの一步」かもしれない、そう思いました。

「取材の中でみた美術館」平成七年三月四日（土）講師・榊 繁 氏。現在、東奥日報社、つ支局長。

東奥日報紙上で連載され好評を得た「いま県立美術館を考える」の取材にあたった当時を振り返りながら、印象に残った全国各地のいくつかの美術館についてお話しいただきました。

美術館などの文化施設が、設置された市町村と上手く「生きて」いくこと。市町村と美術館がどのように溶けあっているのか。

「美術館のある街」そして「街の中にある美術館」その雰囲気づくりには、やはり、その市町村の皆さんが親しみの持てる、そして誇りに思える美術館にしていなくてはと思えました。

## 「明山応義の世界」

平成七年三月一七日（金）

講師・明山応義氏。十和田市在住の洋画家。全国のトップレベルの作品が集まる「安井賞展」で、昨年二年連続四度目の入選を果たしている。

「受講者とひざを交えて、お互いに話し合える雰囲気」という意向で、座談会形式でこれまでの画家半生についてお話しいただきました。

活躍中の画家とじかに話し合える場を持たら。絵の解説をこ細かに聞かなくても、その画家の話す半生の中に、描かれた絵に對する想いを垣間見ることが出来るのではないのでしょうか。「絵を描くということ」というお話をとおして、

「画家・明山応義の世界」だけでなく、「人間・明山応義の世界」を楽しんでいただけたのではないかと思います。絵は描いた画家の心の鏡です。

## 「私の二科時代」

平成七年三月二四日（金）

講師・村上善男氏。現在弘前大学教育学部教授、そして、現代美術の第一線作家。

二科展に出品していた時代を振り返りながら、鷹山宇一先生の印象、そして、二科会の歴史についてお話しいただきました。「画家の生まれた地に記念した美術館がある。このことは、その画家を表現する最もよい環境。」鷹山宇一先生を美術館の展示によりどのよう表現するのか。それは、美術館の企画力がものをいいます。まるで私のためにお話くださったものと思ひ拝聴しました。今後の美術館活動のためにも、学芸員として大変勉強になりました。

美術館では今年度も講座等を企画しております。皆様のご希望をお寄せ下さい。



美術館グッズ好評販売中

美術館では受付窓口におきまして、ご来館の記念やギフトとなる品物を取り扱っております。会員の皆様には、割引価格にてお買い求めいただけます。

なお、特別製作の一九九五年版カレンダー「幻想の世界」は、残部僅少となっております。鷹山画伯の作品十二点を収録。絵画部分を切り取り額装しますと鑑賞用としてもご利用いただけます。

当館では額装も承っておりますのでお申し付け下さい。



# 美術館には何がある？

当館の正式名称は「鷹山宇一記念美術館」です。内外の多くのの方々のご協力によりここには六十数点にのぼる鷹山画伯の作品が収蔵されていますが、私たちの美術館にはその他にも注目をいただきたい特徴・美術品が数多くあります。

これからこの会報の紙面を借りて、友の会の会員や来館のお客様にご記憶いただきたい事柄について特集をしていきたいと考えております。

最初に一番の基本でありますこの美術館の建物自体が、どのような経緯で、どのような構想のもとに建てられたかについて、関係者のご協力をいただきましたがらまとめみたいと思います。

## 美術館建設に至るまで

七戸町教育委員会 生涯学習課長 戸館栄一

鷹山宇一記念美術館がオープンし、多くの入館者をお迎えしている。大いなる喜びである。

美術館の建設は構想段階から多くの方々の御協力により実現したものであり、それらの方々の熱意をこれからの美術館運営の中で活かしていかなければならないと考えている。

さて、美術館は鷹山宇一画伯を敬愛する町民の熱意が契機となり、七戸の文化のシンボルとして計画されたものである。

七戸町の「まちづくり」を考えると、何を核とするのか、町民が一層活力を増し元気になるための源をどこに求めるか。七戸の将来を担う子ども達の教育の原点をどこにおくのか。このような観点から、まちづくり基本構想として「城下町公園プロジェクト」が企てられたが、その根本にある思想は「人づくり」であったと理解している。七戸町は、「教育と文化の町」と言われて久し

いが、先人達が築いたそのことを名実ともに実現していくことをねらいとしている。

そしてプロジェクトの具体的な施設のの一つとして、昭和六十三年度に美術館の建設が計画された。(この経緯は町広報に掲載されている。)



村に建設される核燃燃料サイクル施設の再処理施設に係る電源立地促進対策交付金作品は鷹山宇一画伯及び町民の御協力を得ることで、建設に向けて第一歩を踏み出した。

設計コンペにより設計者が決定し、平成二年度に設計が完了、その後議会等においても激論があったが、最終的に議会から御承認をいただいで平成六年三月に工事が完成し、平成六年八月一日灼熱の暑さの中、北村正武県知事(当時)、名誉町民鷹山宇一画伯、名誉町民榎哲夫博士等の御出席を賜りオープンの日を迎えることが出来た。

七戸町の文化の歴史の一ページを飾る日であった。

### 鷹山宇一記念美術館

設計監理 (株)宮内康建築工房  
 建築工事 三輪・森野JV  
 基礎工事 坂田・三輪JV  
 設備工事 石田産業・三輪JV  
 鉄筋コンクリート造一部2階建 898.77m<sup>2</sup>  
 連棟式の展示室と前面のコンクリート打ち放し仕上げの回廊、円形のランプ展示室が特徴  
 地下水利用の冷暖房システムを採用している

宮内康さんと七戸 青山淨晃

宮内さんとの出会いは現在の明照保育園舎建設の為の設計依頼から始まる。園舎完成後間もなく十勝沖地震があり寺は大きな被害を受けた。特に観音堂は大破し、この為の全体計画を余儀なくされた。それに開宗八百年の大事業もあって、客用の離堂・本堂の控室とが参道整備とか全面的な改修新築が考えられた。その為宮内さんと接触することになって、お酒の好きな彼と七戸のあちこちを呑んで歩いたものである。一関の娘の所でも彼の設計により医院と住宅を建築するということになり、飛行機ぎらいの宮内さんにとっては丁度好都合で、東京・一関・七戸と何度も青森通いをしてくれた。

今こそ設計図面は機械が処理してくれるが、当時はすべてフリーハンドの時代で彼の設計思想と共に仲々いい文字の説明書を付してくれ、今も大事に保存している。

安保に係わる大学紛争の時代で、彼の事務所も転々と変わり、お金に縁遠い宮内さんも随分苦労したようである。映画の好きな彼は

「怨恨のユートピア」なる映画評論を書いている。常に体制に批判的であった一面人間に対する優しさに溢れていた。彼の晩年の傑作に東京山谷の労働会館の建設がある。建設会社に発注すれば金がかかりすぎるので、自ら手作りの建物を完成したわけである。これが話題になり朝日新聞にも写真入りで紹介されたものである。手元に資料があればもう少し詳しく触れたいのであるがいつか整理しておきたいと思っている。

美術館の全体プランができた頃から、体調がおもわしくなかったのでしょうか。ついに癌に倒れまことに残念ながら不帰の客となってしまった。彼の作品は時々「建築文化」誌にも取り上げられ、知る人ぞ知るユニークな設計者であった。九十二年十月三日短い人生を駆け抜けて彼岸へ旅立った。

今の美術館は、宮内さんが長年通い馴れた七戸の土地柄・牧場の三浦山からの眺望・奥羽牧場の広大な景色・一升十町歩のグリーン地帯・から松の防風林等、北海道を思わせる景観を充分に配慮して計画されている。この景観には宮内さんもちたたく感激していたし、

# 会員の皆様へ

鷹山宇一

昨夏炎熱のもとでの美術館開館式より早くも十ヶ月近くたちました。友の会の皆様には美術館発足と共に苦業を共有して下さる同志としてご参加いただき心より御礼申し上げます。

私の九十年近い生涯はただ画業そのものに終始一貫したものであります。

持って生まれた性格がそのようにさせたのでしようが、やはり自ら志した仕事を天与の職と定めたからであり、一度しかない人生を好きなように生きられ、晩年になって生まれ育った地にこのようないい思いで迎え入れられた私の一生は言

## お知らせとお願ひ

友の会では美術館への色々な形での協力、会員相互の学習・自己啓発、そして美術館に関する連絡やサーブिसを通じて、会員と鷹山先生・美術館との橋渡しができればと考えております。春季二科展についても、協力することができると思っています。開催前日には、二科会より展示指導の方がおいでになります。会場準備にボランティアとして参

葉で言い尽くすことはできません。

「人はパンのみで生きるにあらず」の言葉通り美に対する憧憬が幼い頃より研ぎ澄まされるよう若い入場者が一人でも多く訪れてくれることを切に願っております。

開館日の記録的な暑さ、地震によるランプの破損と、美術館の歴史には事欠かないような色々な出来事が起きてきますが、いつの日か皆様方と思ひ出話としてのひとときがもてますことを楽しみにしています。

四月二十日  
(美術館名誉館長)

加することにより様々なことを学ぶことができます。また期間中も会場係などのスタッフが必要です。参加できる方々で日程を組んで協力していければと思ひますので、美術館までご連絡をお願いいたします。さらに毎月第二火曜日の十二時より美術館2階において美術に興味のある方が集まり自由に懇談するサロンを開催しておりますのでご案内申し上げます。

# 会員からのメッセージ

## 研修旅行に参加して

日帰りで費用も安く参加しやすいので、機会があれば今後参加したい。

(男性・五十二歳)

(女性・五十一歳)

年数回の実施を希望します。

(男性・七十一歳)

バスの乗車時間が長かったが、目的地と費用の安さを考えると納得できる。

(女性・四十五歳)

大変勉強になりました。

特に萬美術館のハイビジョンシアターでの映像メディアによる説明は素晴らしかった。我が美術館でも検討したらどうかと思います。

(女性・四十四歳)

(女性・四十六歳)

友の会の活動・美術館の事業などについて

会員それぞれの美術に対する感性の向上のため、勉強会・懇談会などを企画して欲しい。

(女性・四十六歳)

美術館でのミニコンサートなどを企画しては？

(女性・四十四歳)

美術館巡りを今後も実施して欲しい。一泊旅行でも結構です。

(女性・五十一歳)

(女性・四十五歳)

県内外の焼物展を企画して欲しい。

(女性・四十五歳)

## 来館者の意見他

・会報は友の会のニュースを取り扱っているのか、美術館の広報なのか区別されていない。

・会報の内容が固すぎるのではないか。

・会報は右側に余白を設けて下さい。(綴じしろとして)

・美術館にサロンまたはティーラウンジのような休息コーナーを設けて欲しい。

・美術館の収蔵品に関する資料コーナーを設けて欲しい。

・町内の旧家の収蔵品を見ることが出来る機会を作って下さい。(雛人形・刀剣類・馬具など)

・土曜・休日などに小中学生・高校生が美術活動のできる場を提供して欲しい。

・新聞・テレビ・ラジオ等

に催し物のお知らせがあまり載らないのでは

・夏になったら、中庭をライトアップして夜間の営業をして下さい。

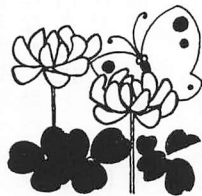
・今後、展示室が増えるので子供や一般の作品の展示できるコーナーを設けてみては

貴重なご意見・ご提言ありがとうございます。会報の紙面に関するご指摘については、友の会関係のニュースと美術館の企画・お知らせとは区別するかたちで編集することといたしました。

また友の会に対するご意見は参考にさせていただきます。とともに、美術館関係の要望は館側へ伝えておきます。

今後ご感想・意見・提案・不満等を多数お寄せ下さい。

友の会会長



国際写真サロン展について  
全日本写真連盟・朝日新聞社主催の国際写真サロンは、写真の国際交流をはかろうと始められた写真展で、今年で56回目を迎えます。

昨年の応募状況は、内外58ヶ国、約6,000点の秀作が応募され、この中から海外80点、国内50点が入賞の榮譽をうけました。アマチュア作家にとつて一度はこの展覧会に入選することが夢で、大きな榮譽の一つとなっております。

全日本写真連盟では写真文化の普及と国内のアマチュア写真家の育成のため国内各地で移動展を開催、好評を得ております。鷹山宇一記念美術館の開館を機に、フォトシチのへ(全日本写真連盟七戸支部)ではこの国際写真サロン移動展を七戸で開催したいと、誘致交渉をかさねましたが、諸般の事情で今年には開催する事が出来ませんでした。

今後美術館と協議を重ねながら、課題をクリアーし、国際写真サロン移動展を誘致したいと考えております。皆様のご協力をお願いいたします。

全日本写真連盟青森県本部  
事務局長 石田清剛  
(友の会 理事)